

2015 年度活動報告 交換授業：レギュラー3-1（聴解）

福富 奈美（関西学院大学日本語教育センター）

高村 めぐみ（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

中級学習者を対象としている。同レベル2クラス開講で、各クラス5名（計10名）である。1週間に1コマ（90分）で、「話す」「聞く」を中心に、その関連の学習活動として「書く」活動を行った。本授業では自分や国、社会、文化に関する話題について「まとまった話ができるようになる」、「まとまった内容のある話を聞いて理解できるようになる」、「話すことばと書きことばを意識して書き分ける」ことを目標とした。

2. 授業内容

全14回で、「話す」は『初級からの日本語スピーチ¹』から2課分を抜粋し、各課の話題で①話し合い、②アウトライン作成、③スクリプト作成、④発表練習、⑤発表（スピーチ、質疑応答含む）を行った。「聞く」は『新・毎日の聞き取り 50日 上²』から、授業では1～2課/1コマを扱い、中間・期末試験では同教材から2課分を実施した。

「書く」はスピーチのアウトライン及びスクリプト作成と、スピーチの話題と関連する題材で留学生文集『かけはし』の作文を書くことを課した。学生から要望があったため、学期後半で「漢字ハンター」を行い、文集の作文を書く前の準備として、書きことばと話すことばの違いについて簡単に確認を行った。

3. 成果と今後の課題

アンケートでは「とても満足」2名、「満足」4名と、満足した学生がやや上回ったが、「どちらでもない」2名、「満足でない」2名で、自由記述回答から「聞き取りの練習が役に立った」「たくさん学べた」「話すサポートをしてくれたのが良かった」という好意的な意見があった一方、「（授業で行う活動の）目的が分からぬ」「宿題が少ない」「話す機会が少ない」「聞く練習以外に討論をしたり、漢字も学びたい」などの不満が出た。複数クラス開講だったため、学期途中での方針調整や配布教材、課題の追加など、柔軟な対応をすることは困難であった。今後、同様の状況が起こった場合、クラス間で連携し、学期中に調整して迅速に対応できるよう検討する必要がある。

¹国際交流基金 関西国際センター『初級からの日本語スピーチ』凡人社、から序章、4章、10章の一部を抜粋して配布。

²宮城幸枝・太田淑子・柴田正子・牧野恵子・三井昭子『新・毎日の聞き取り 50日 上』凡人社、から中間試験は3,4課、期末試験は18,20課を実施。